

氏 名	にん かず こ 任 和 子
学位(専攻分野)	博士 (人間・環境学)
学 位 記 番 号	人 博 第 255 号
学位授与の日付	平 成 16 年 5 月 24日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	人 間 ・ 環 境 学 研 究 科 人 間 ・ 環 境 学 専 攻
学位論文題目	慢性疾患患者の心理社会的ストレスに関する研究

論文調査委員 (主 査) 教 授 津 田 謹 輔 教 授 森 谷 敏 夫 助教授 石 原 昭 彦

論 文 内 容 の 要 旨

慢性疾患患者において、心理社会的ストレスは、それぞれの原疾患の悪化に関与すると推測される。その理由として、心理的要因が慢性疾患の治療を妨げることや、ストレス関連の生理学的反応が、慢性疾患の症状を増悪させたりすることが考えられる。

しかし、心理社会的ストレスには多くの構成要因が関与している上に、脳内における作用機序も十分解明されていない。そのため、慢性疾患と心理社会的ストレスの関連についての研究は系統的に行われておらず、その定量的評価は確立されていない。慢性疾患患者の心理社会的ストレスに対する介入や予防的対処の方法を開発するためには、心理社会的ストレスを定量的に把握し、緩衝要因との関連を明らかにすることにより、ストレス構造を系統的に理解することが優先される。

本研究では、1) 心理社会的ストレスとストレス反応を定量的に評価する方法を確立し、その方法を用い、入院患者を対象にして心理社会的ストレスとストレス反応に介在する要因を明らかにすること、2) 糖尿病患者の心理社会的ストレスとストレス反応、及びコーピングを定量的に評価し、さらにこれらと血糖コントロールとの関係を明らかにすることを目的とした。

1) については、まず、入院患者915名を分析対象として、入院患者の心理社会的ストレスとストレス反応を測定するための2種類の尺度開発を行った。第一の尺度である心理社会的ストレスの尺度は、入院場面で患者が経験する様々な出来事について、患者が不快を感じたり負担に思うことを評価することが目的である。尺度原案は Hospital Stress Rating Scale (Volicer ら, 1973) を参考にした。そのうち項目間相関の低い項目を削除した46項目を新しい定量化のための尺度とした。主成分分析により次元性であること、さらに、クロンバック α 係数により高い信頼性があることを確認することができた。もう一つの尺度は、入院患者のストレス反応を評価するもので、身体的反応22項目と心理的反応18項目とを含む合計40項目を設定した。因子分析により構成概念妥当性が、また、クロンバック α 係数により高い信頼性が支持された。さらに、心理社会的ストレスとストレス反応(身体的反応、心理的反応)間には、有意な相関(それぞれ $r = .40$, $r = .52$)があることを確認でき、基準関連妥当性が示された。

このようにして開発した尺度を用いて、心理社会的ストレスとストレス反応に介在する要因について解析した。その結果、①入院患者の心理社会的ストレス認知には個人差があること、②心理社会的ストレスとは独立して、入院患者のストレス反応には個人差があることを明らかにした。ここで明らかにされた患者側の要因は、容易に得ることのできる情報であり、入院生活への適応や患者の心理的問題をアセスメントする際に生かすことができる。

続いて、もう一つの研究目的である、2) 糖尿病患者の心理社会的ストレスとストレス反応、及びコーピングと、血糖コントロールとの関係については、通院中の2型糖尿病患者を対象に、以下の三側面から解明を試みた。第一に、糖尿病特有のストレスと、ストレス反応として燃えつき状態の概念を用いて調査を行い、63.4%の糖尿病患者に糖尿病特有のストレスが存在することを示した。さらに、対象の11%は高度の燃えつき状態を示しており、燃えつき状態が重度にな

るほど糖尿病特有のストレスをより多く抱えている傾向があることを明らかにした。第二に、血糖コントロール不良群は良好群に比べ、①過去1年間にストレス性の高いできごとを多く経験し、②仕事や家庭生活等に関する療養外のストレス及び食事療法など糖尿病療養行動に関するストレスをともに感じている割合が多く、③軽度から重度の抑うつ状態に分類される者の割合が高いことを明らかにした。第三に、血糖コントロール良好群は不良群に比べ、糖尿病特有のストレスに対して、情動中心優位型ではなく問題解決型優位のコーピング方略をとっている割合が多いことを示した。

以上、本研究では、慢性疾患患者の心理社会的ストレスについて、入院という状況と、外来における糖尿病患者の血糖コントロールとの関連から検討し、いくつかの新知見を得た。患者の健康にとって有害となる心理社会的ストレス及びストレス反応のアセスメントを行い、予防的に対処することは、患者ケアの質を向上させるために不可欠である。本研究で得られた知見は、患者への入院時オリエンテーションや、糖尿病の個別指導や糖尿病教室などにおける患者教育のプログラムの作成に生かすことができるものである。

論文審査の結果の要旨

慢性疾患患者において、心理社会的ストレスは、それぞれの原疾患の悪化に関与すると推測される。慢性疾患の中でも、糖尿病は生活習慣病の代表的疾患で、脳卒中や心臓病の危険因子となることが知られており、また、神経障害、網膜症、腎臓障害などの合併症による生活の質の低下も重大な問題となる。そして治療には食事や運動療法といった自己管理が必須となる。

慢性疾患患者の心理社会的ストレスに対する介入や予防的対処の方法を開発するためには、心理社会的ストレスを定量的に把握し、ストレス構造を理解することが不可欠である。そこで、申請者は、定量的方法による慢性疾患患者の心理社会的ストレス構造の解明に取り組んだ。

本研究において申請者は、1) 心理社会的ストレスとストレス反応を定量的に評価する方法を確立し、その方法を用い、入院患者を対象にして心理社会的ストレスとストレス反応に介在する要因を明らかにした、2) 糖尿病患者の心理社会的ストレスとストレス反応、及びコーピングを定量的に評価し、さらにこれらと血糖コントロールとの関係を明らかにした。

1) については、まず、入院患者の心理社会的ストレスとストレス反応を測定するための2種類の尺度開発を行った。第一の尺度である心理社会的ストレスの尺度は、入院場面で患者が経験する様々な出来事について、患者が不快を感じたり負担に思うことを評価することが目的である。尺度原案は Hospital Stress Rating Scale (Volicer ら, 1973) を参考にした。そのうち項目間相関の低い項目を削除した46項目を新しい定量化のための尺度とした。主成分分析により一次元性であること、さらに、クロンバック α 係数により高い信頼性があることを確認することができた。もう一つの尺度は、入院患者のストレス反応を評価するもので、身体的反応22項目と心理的反応18項目とを含む合計40項目を設定した。因子分析により構成概念妥当性が、また、クロンバック α 係数により高い信頼性が支持された。さらに、心理社会的ストレスとストレス反応(身体的反応、心理的反応)間には、有意な相関(それぞれ $r = .40$, $r = .52$)があることを確認でき、基準関連妥当性が示された。

このようにして開発した尺度を用いて、心理社会的ストレスとストレス反応に介在する要因について解析した。その結果、①入院患者の心理社会的ストレス認知には個人差があること、②心理社会的ストレスとは独立して、入院患者のストレス反応には個人差があることを明らかにした。ここで明らかにされた患者側の要因は、容易に得ることのできる情報であり、入院生活への適応や患者の心理的問題をアセスメントする際に生かすことができる。

本研究は、入院患者の心理社会的ストレスを定量的方法により評価することで、入院患者のストレスに対する予防的ケアや、ストレス反応の軽減方法を開発する基礎となる成果を導いた。この研究は、日本保健医療行動科学会年報に発表した。もう一つの研究目的である、2) 糖尿病患者の心理社会的ストレスとストレス反応、及びコーピングと、血糖コントロールとの関係については、通院中の2型糖尿病患者を対象に、以下の三側面から解明を試みた。第一に、糖尿病特有のストレスと、ストレス反応として燃えつき状態の概念を用いて調査を行い、63.4%の糖尿病患者に糖尿病特有のストレスが存在することを示した。さらに、対象の11%は高度の燃えつき状態を示しており、燃えつき状態が重度になるほど糖尿

病特有のストレスをより多く抱えている傾向があることを明らかにした。この結果は、治療中断や、治療計画の不遵守などにより治療困難となる患者への予防的サポートを組み込んだ教育プログラムの開発に貢献するものである。第二に、血糖コントロール不良群は良好群に比べ、①過去1年間にストレス性の高いできごとを多く経験し、②仕事や家庭生活等に関する療養外のストレス及び食事療法など糖尿病療養行動に関するストレスをともに感じている割合が多く、③軽度から重度の抑うつ状態に分類される者の割合が高いことを明らかにした。第三に、血糖コントロール良好群は不良群に比べ、糖尿病特有のストレスに対して、情動中心優位型ではなく問題解決型優位のコーピング方略をとっている割合が多いことを示した。糖尿病特有のストレスに応じた効果的なコーピングや、それらのコーピングを促進する要因をさぐる上で、本研究の果たす役割は大きい。この研究は、糖尿病、及び心療内科に発表した。

近年相次いで発表された前向き臨床試験の結果は、良好な血糖や血圧を維持することにより合併症の発症・進展が抑制されることを示した。良好な血糖コントロールの達成には、薬物療法だけではなく、食事や運動といった生活習慣の見直しが必要である。しかし、食事療法や運動療法など糖尿病の治療へのアドヒアランスを高めることは血糖コントロールを良好にするが、生活習慣の自己管理は、患者に大きな心理的負担を与える。

本研究は、糖尿病のような慢性疾患患者の心理社会的ストレスの定量的評価に成功した。このことは、慢性疾患患者の治療や療養において、患者のセルフケア行動を支えるための心理社会的ストレスへの介入の基礎になるものであり、疾病の改善に貢献することができる可能性を示したものと見える。

本研究は、人間と環境の問題を総合的に考察するという人間・環境学専攻、自然・人間共生基礎論講座、環境適応論の目的に添ったものである。

よって、本論文は博士（人間・環境学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成16年3月11日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。